交通渋滞緩和に期待

鹿児島市武武岡線（I期）開通

鹿児島市の武岡団地、武岡ハイランド等からの発生交通に対処し、市街中心部への交通アクセス機能を強化する域内幹線道路として整備を進めてきた武武岡線（I期）がこのほど完成し、29日に現地で完成式典が行われ、行政関係者、施工業者、地域住民ら多数が出席して完成を祝った。

完成式典に先立ち、安全祈願祭が執り行われ、赤崎義則市長や長田徳太郎市議会議長らが玉串を捧げて完成を祝うとともに、今後の車両通行の安全や地域発展を祈願。引き続いて、トンネル入口で赤崎市長らがテープカットを行い、武保育園児らと一緒にくす玉を割り、渡り初めを行った。

完成式典では、赤崎市長が「本線の開通により、周辺道路の渋滞緩和が図られ、道路交通の円滑化と安全性の向上、交通体系の改善に大きく寄与することを期待しています」と挨拶。次いで、園田太計夫市建設局長が工事経過報告を行い、設計・施工に携わった業者に感謝状が贈呈された後、菊田利春国土交通省九州整備局副局長、加藤憲一県土木部長（代理）らが祝辞を寄せた。

都市計画道路「武武岡線（I期）」は、武2丁目から武岡1丁目（武岡ピュアタウン）までで、常盤トンネル（L約400m×W14m）を含む延長約1200㍍（W14m）の幹線道路。総事業費は約68億円。

施工業者等は次の通り。

設計＝朝日開発コンサルタンツ㈱　㈱協和コンサルタンツ▽土木＝鮎川建設㈱　植村建設㈱　鹿児島道路サービス㈱　鹿大丸建設㈱　こうかき建設㈱　コーアツ工業㈱　㈲坂上庭園　㈱島津興業　㈱新栄　末吉建設㈱　㈱大興建設　㈱谷山グリーンサービス　南生建設㈱　㈱新留土木　栗月工業㈱　㈱平床建設　㈱富士産業　㈱マルトミ工業　㈱森山　㈱森山土木　吉留建設産業㈱　㈱渡辺組　㈱朝日産業　㈱日拓　㈲あい公樹園▽電気設備＝小糸工業㈱　南九州営業所　松下電器産業㈱九州支店　山田電気㈱　神野商事㈱

テープカット（上）とくす玉割りで祝った完成式典＝鹿児島市の現地で

県板金工業組合青年部勉強会

銅板折鶴の技術習得

県板金工業組合青年部（坂之上靖郎部長）は27日、鹿児島市の鹿児島高等技術専門校で銅版折鶴の勉強会を開き、会員らは銅板折鶴の技術を学んだ。

日頃使う材料や道具を使った銅板折鶴は、14年2月に広島市の平和公園の「原爆の子像」・通称「千羽鶴の塔」に放火する事件が発生し、心を痛めた京都府板金工業組合青年部のメンバー15人が燃えない金属製の折鶴を製作したのが始まり。同年8月には広島を訪れ総重量20㌔でステンレスワイヤーで50羽を20連につなぎ千羽鶴に平和の願いを込め、「原爆の子像」に捧げた。それらの取り組みと奉仕の精神を習得するため、翌年、長崎県の板金工業組合でも講習会などを開き、技術を習得した。その長崎の会員が今回鹿児島に来鹿し鹿児島の青年部会員に伝授した。同日は長崎県の山下厳記氏（㈱ヤマシタ）と田中健一氏（田中板金工作所）が講師を務めた。

同日は、坂之上部長が「日頃、仕事で使っている材料や道具を使い、銅板折鶴の技術を長崎の会員から学びますが、この技術を習得し、これを生かした活動などにつながるように真剣に学んでください」と挨拶。山下厳記長崎県前青年部長が「京都の板金組合の思いを受け継ぎ、長崎でも技術を学びましたが、鹿児島でもこの技術を習得し完成時などに贈呈したり、またボランティアとして活用してほしい」と述べ、勉強会に移った。

冒頭、紙で実際に折鶴を作りそれをバラシ展開図の基本を学んだ。その後、実際に銅板を使い折り目部分に線を引き、ペンチに似た掴著という道具で折り曲げ、金づちで折り目を叩いたりして完成した。講師の山下氏は「最初からきれいにできないが、何回も製作するうちに30分程度できれいに仕上がるようになる」と付け加えた。

一羽の鶴に千の寿があるのなら、千の鶴には百万の寿があり、千羽鶴を折って願いを叶えてもらおうとする習慣があったように、会員らはそれぞれが作った折鶴に自分の想いを託し真剣に製作した。

坂之上部長は「この銅板折鶴の技術を習得し、本県でも将来的にはこれを生かした活動やボランティアとして小学校等に寄贈できれば」と語った。

銅板折鶴（下）と製作の工程を学んだ勉強会＝鹿児島市の鹿児島高等技術専門校で

県建築士会国分・姶良支部現場見学会

最新設備を入念に点検

県建築士会国分・姶良支部（恒吉史高支部長）は29日、15年度現場見学会を実施し、会員約50人が参加して姶良郡溝辺町の多目的交流施設「上床ドーム」など2カ所の現場を訪れた。

このうち国分市の舞鶴中学校では、設計監理業務を担当した永園設計㈱の熊野光幸設計第2部長が同校の概略について、地域に開かれたコミュニティの核となるべく設備が充実していることや、太陽光発電等の自然エネルギーを使用したハートフルな建築物であることなどを説明し、参加者はメモを取りながら熱心に聴き入っていた。

続いて参加者は、同中学校PTA会長の鈴木文隆㈲緑彩造形社長の案内で校舎内を見学したが、開放的な回廊型の校舎や、木材や産業廃棄物を利用したレンガの使用、生徒の安全を図るために校門に設置された監視カメラ、ソーラー給湯など、最新の設備を興味深げに見入っていた。

最後に来年度の異動が決まっている同支部副支部長の竹本直県加治木土木事務所次長が「本日は建築士としての目で意義ある研修ができたことと思う。今後とも互いに協力して士会を盛り上げていただきたい」と挨拶。会員の拍手の中、研修会は無事終了した。

熱心に見学する参加者＝国分市の舞鶴中学校で

建災防

COHSMS評価サービス第4号

五洋建設南九州支店に

建設業労働災害防止協会（建災防、錢高一善会長）は29日、建設業労働安全衛生マネジメントシステム（COHSMS＝コスモス）の第三者評価制度「COHSMS評価サービス事業」で、第4号となるコスモス評価証を五洋建設南九州支店（黒木一實支店長、鹿児島市）に交付した。九州地区での認定は初めて。同日、南本禎亮専務理事が黒木支店長に評価証や評価結果報告書を手渡した。

COHSMSは、建設業の特性を加味した労働安全衛生に関する管理システムで、企業の自主的、継続的な安全衛生管理を前提としている。しかし、既にシステムを構築した企業から「外部の第三者による公正なシステム評価がほしい」との声が多く寄せられたことから、建災防が15年1月から評価サービスの運用を開始した。

五洋建設南九州支店の評価については、15年12月に安全管理士、労働安全コンサルタントなどの資格を持つCOHSMS評価者3人が実地調査を実施。評価結果を今月25日に学識経験者らで構成する「COHSMS評価サービス事業審査会」に報告した。審査により、公正性、適格性などの承認が得られたため、評価証の交付が決まった。

黒木支店長は、「100年以上の歴史を持ち、地域密着を掲げる南九州支店にとって、労働災害防止の取り組みが不可欠。評価サービス活用の先駆けとして、他に広げていきたい」とあいさつ。同社では、北陸支店でも実地調査を終えており、次回の審査会での審査を経て評価証が交付される見通し。

建災防では、「支店単位での評価が積み重なれば、その結果を基に会社全体を評価サービスの対象とすることも考えられる」としている。

評価証を手にする黒木支店長（中央）

ゴルフ会員権と株券・即現金買取り
相場80％　融資OK!!
商業手形割引
資金業登録番号知事(7)00077号
(社)鹿児島県貸金業会員85号
きりハウス㈲
鹿児島市下荒田4-8-16　☎(099)252-5238